

平成29年度台湾・香港青森りんご友の会情報交換会概要

(青森りんご輸出促進支援事業)

- 1 日 時 平成29年10月3日(火) 午後3時～午後5時30分
- 2 場 所 ホテルニューキャッスル3階麗峰の間(弘前市上鞆師町24-1)
- 3 出席者 台湾側: 8社、13名、香港側: 2社、2名
日本側: 63名、合計78名
(出席者名簿: 末尾記載)
- 4 内容 (座長: 青森県りんご輸出協会丹代専務、通訳: 運盈商事鈴木社長)

(1) あいさつ

①一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長 北山 敏光



台湾・香港青森りんご友の会情報交換会の開催に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多忙の中、青森りんごを取引いただいている台湾北部地域の台湾青森りんご友の会の代表の皆様、また、香港青森りんご友の会の皆様におかれましては、8月の台風13号で香港、マカオ、広州が大きな被害を受けられましたことにお見舞い申し上げますとともにご出席いただき心から感謝申し上げます。

本会は、台湾・香港の貿易会社や仲卸業と青森県のりんご関係者の一層の絆を深める為に創設されました。

私たち青森県のりんご関係者は、この会に参加くださった皆様を青森りんごの販売にとって特別大切な存在だと考えています。

皆様方の日頃からのご努力とご協力によって、青森りんごが順調に取引され、台

湾・青森双方の利益に大きく貢献しています。

さて、2016年産の日本のりんご輸出は、2万7千トンと前年を下回りましたが、価格高の中でも過去三番目の輸出量となりました。

この中で最大の輸出先は台湾で、2万トン台の輸出量を維持しています。

また、香港市場も近年急激に輸出量が伸びており、台湾に次ぐ大きな市場として期待しています。

両市場は青森りんごにとって大切な市場であり、輸出量の拡大は本県りんご産業にとって重要な課題となっていると認識しています。

御地における県産りんごの最大の需要期である旧正月がここ10年で最も遅い2月16日であることなど、輸出にとって良好な状況となっています。

輸出量3万トン台の復活に向けて青森県りんご関係者・団体が一丸となって両地域の消費者への積極的な宣伝活動を進め、青森りんご友の会会員との連携を強化することにしております。

本日は、参加者の皆様から産地の状況をご覧いただいた上で、今年の青森りんごの輸出促進にあたって忌憚のない積極的な意見をいただき、本日の情報交換会を有意義なものにして参りたいと思いますので、最後までご協力くださるようお願いして、開会のことばといたします。本日はありがとうございます。

②青森県知事 三村申吾

ダージャーハオ、ダージャーハオ、トキ、トキ、トキハウツー。

今日来ている台湾、香港の皆様方ありがとうございます。安全、安心だけでなく世界で一番美味しいりんごを高く評価くださっている皆様方に感謝申し上げます。しかしながら、お互いに一番大切なのはお客様だと思っています。



私どもがセールスに行って一番うれしいのは台湾のお客様も香港のお客様もシンセンピンコハウツーと言ってくれることです。

今日はりんご畑の方に行かれたと思います。安全・安心というだけでなく最高品質のりんごを作る生産者が青森にいてくれます。皆様のお客様のために今年も本当に良いりんごがいっぱい出来ています。お互いにとって認識しなければいけない大事なことはお客様が喜ぶこと、間に入る人も喜ぶ、生産者も喜ぶエブリバディーハッピーな状況になることが大事だと思います。りんごは人を幸せにする作物です。

私は青森県のトップです。その私が、トキがナンバーワンであることを皆様に保証します。また、青森りんごを扱うことで儲かることも私が保証します。ここにいるメンバーが今年も最良のりんごを皆様方に提供するので、しっかりと売れるシステムを一緒に考えてやって行きましょう。

今年は春節が遅いので、ビックチャンスです。今はトキ、冬になったらこれ（自分の着ているシャツのふじを指して）、青森のりんごで台湾、香港の方を幸せにして、ビジネスの関係者もハッピーになりましょう。12月になると台湾の民視テレビに出演するなどキャンペーンに行きますのでよろしくお願いします。責任をもって販売しますからよろしくお願いします。

③台湾瓦克国際股份公司 李 昭志

三村知事、北山理事長、会員の皆様、台湾からお越しの皆様こんにちは。

この度はご招待していただき2017年産りんごの情報交換会に参加させていただけることを光栄に思います。

本日は朝から弘果の産地市場をはじめりんご研究所、森山農園を見学させていただきました。今回最も印象に残ったのは、森山農園です。

青森県のりんご農家は自分の知恵を絞って、良いりんごを作っていることが印象に残りました。

お招きいただきありがとうございます。台湾、香港の関係者がりんごの産地で活発に意見を述べ合い交流していきましょう。



④味珍味（香港）有限公司 FRANKIE P. WU

三村知事、北山理事長、本日は協会の招待により産地に來られたことに感謝しています。私個人は、りんごは青森県産しか買いません。理由は二つあります。私の初めてのプロモーションのアイテムが1983年香港で販売した青森りんごです。

その頃、青森りんごは香港であまり知られていませんでした。香港では青森県の地名はよく知られています。その時は、三名のミスりんごがりんごを配っていました。綺麗な着物を着てりんごを配っていたので香港では非常に有名になりました。当時の香港では、日本の着物を着た人が人前にでるのは珍しいことでした。

第二の理由は、自分の妻が青森県人ということです。この二つの理由で、りんごは青森りんごと決めています。

日本産輸出りんごの27パーセントが香港で販売されています。また日本産食品の最大の輸出先は香港です。誰でも輸入できる状況なので価格面で厳しい競争があります。この情報交換会を通じて青森県産りんごの消費者、流通業者のすべてがワイン・ウインの状況になることを望んでいます。



本日は、この場にお集まりの方々全員がワイン・ウインになれるような会議であることを願っています。ありがとうございました。

（２）2017 年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

生産状況については、青森県産業技術センターりんご研究所今村所長から、台湾への輸出については、青森県国際経済課沖沢課長から、さらに台湾宣伝事業について青森県りんご対策協議会森山常務理事と高澤事務局長から資料に沿って説明されました。

（３）情報交換（座長：青森県りんご輸出協会丹代専務）

【台湾の状況等について（話題提供）】

<元林實業 余 立元>

- ・台湾では若者がりんごを消費する量が少ない。若者をりんごに引き付ける方法が何かないか、ちなみに熊本県のナシは購入者にクマモングッズを配っている。
- 青森県りんご対策協議会でも国内のPRにおいては、若者をターゲットにPRを行っている。国内では話題性のある芸能人をキャラクターとして鮮度保持袋にプリントして配布することとしている。希望があれば台湾で同じことを実施する。（青森県りんご対策協議会 高澤事務局長）

<台湾瓦克国際股份公司 李 昭志>

- ・トキが出回っているが玉が小さい、中秋節の前には贈答用のものがほしい、贈答用には玉が大きく綺麗なものが良く売れる。大玉は36玉まで、これ以上の玉は売り切れになるが、46、50玉は売れ残るので価格面で下げるしかない。
- 今年のトキは、大玉が少ない。トキに関しては李さんが言っているとりの販売をするしかない。トキは小玉傾向だが、この後の品種は平年並みと見込んでいる。これからの玉伸びを期待したい。（青森県りんご輸出協会 丹代専務理事）

<大昌行集團有限公司 LOOI CHOY HAR>

- ・直営のスーパーを持っていて青森のりんごは、建隆さんを通して輸入してきた。日本にある大昌行貿易は主に全農から仕入れている。香港では36玉が手ごろで評判が良いが、去年は王林の値段が暴落して50玉と小さかったため他の品種に

切り替えた。香港でもトキは最近人気が高い。ぐんま名月の問い合わせもある。

今後青森りんごの販売拡大のためゲーム的な要素を盛り込んだPRとして韓国や米国産のりんごと食べ比べをやってみたいと思っている。

【総合討議】座長（青森県りんご輸出協会丹代専務）

テーマ① 有効な消費宣伝について

② 青森りんごの拡大について

＜和新生鮮有限公司 紀 奕成＞

- ・まず重要になるのは、販売のタイミングです。明日は中秋節だがこの時期は何もしなくても良く売れる。中秋節から春節までの間の販売対策を議論する必要がある。この期間、台湾側の冷蔵庫はりんごが満杯の状態です。台湾では11月、12月の販売は毎年苦戦を強いられる。

アメリカ産は最近だんだん大玉の傾向になってきた。日本産のりんごは大玉に人気があるが、米国産が大玉化することで日本産が苦戦する可能性がある。弊社はスーパー、量販店への卸が主体で40、46玉の販売は問題ないが大玉の36玉は補助金がないと販売は難しい。補助金でなくても何がしらの支援を産地側と一緒に検討していきたい。

＜青森県りんご輸出協会 丹代専務＞

- ・台湾で36玉を大玉として販売できないものか。

→36玉が大玉扱いされないのは、米国産の類似のサイズのりんごが安すぎるため。20キログラム換算で72玉では魅力がない。（台湾瓦克国際股份公司 李 昭志）

＜青森県りんご対策協議会 森山常務＞

- ・12月、1月に試食販売に参加している。台湾でりんごを購入する場合は主婦の権限が最も強いと聞いている。青森県りんご対策協議会では鮮度保持袋を販促グッズに使っている。国内では好評だが台湾の若い主婦層はどのようなグッズを欲しがるのか聞かせてもらいたい。

→毎年続けて消費宣伝をやっているが、鮮度保持袋は皆さんに喜んでいただけるグッズです。ただし、消しゴム、物差しは喜ばれなくなっている。（台湾瓦克国際股份公司 李 昭志）

＜味珍味（香港）有限公司 FRANKIE P. WU＞

- ・参加している皆様にお聞きしたい。りんごが売られている台湾や香港に行ったことのある方はどのくらいいますか。

→ほとんどの人が台湾、香港に行っています。（青森県りんご輸出協会 丹代専務）

- ・生産者の方は行かれたことがありますか。

→生産者は、台湾に行くことはあるが、香港にはあまりいっていない。（青森県りんご輸出協会 丹代専務）

- ・日本の生産者や業者の方が台湾、香港に意見や要望を言ってもらいたい良い機会なので、何でも聞いてほしい。

＜青森県りんご輸出協同組合 中村理事長＞

- ・36玉が苦戦をしいられているという話ですが、りんごを生産する上で中心となる玉が36～40玉である。この階級の生産量が最も多い、私たちは中心玉が一

番美味しいと教わってきた。美味しい中心玉を売る努力が必要だと思う。日本では36玉を売る時は、40玉を出さず46玉と一緒に並べる。40玉を売るときは50玉と一緒に並べるなど工夫をしている。トキ、ぐんま名月が喜ばれているが、数は少ない、トキは美味しいが作るのが難しく生産をやめる農家も出てきている。大玉だけの販売では大玉の価格高騰につながりかねない。

<県内りんご生産者 鈴木 克昌>

- ・青森りんごを台湾に輸出する場合、業者の方は1MCP処理をされていますか。
- 参加している業者の方は、1MCP処理をしていない。（青森県りんご輸出協会 丹代専務）
- ・1MCP処理されたりんごは長持ちする。諸外国の輸出入りんごは多くが処理されている。1MCPはエチレンによる熟成を抑えるが同時にりんごの香りが抑制される。香りの良し悪しは、販売に影響しないのか台湾・香港の方に伺いたい。
- りんごは、販売されて初めて価値のあるものとなる。りんごが長持ちするという事は資産価値が維持されることなので、個人的にはりんごは長持ちした方が良いと思うが、個人で意見はわかれる。（味珍味（香港）有限公司 FRANKIE P. WU）
- ニュージーランドは80%程度スマートフレッシュを使っている。残りの20%は早期販売に向けられる。スマートフレッシュとCAを併用しているものもある。何処でどのように販売するかで使い分けている。一概に良い、悪いは言えないのではないか。りんごは生ものなので、買い取った時点から価値は下がっていく、長持ちすることは1つの保険と考えている。（和新生鮮有限公司 紀 奕成）
- 今、産地市場では紅玉の上場がピークを向かえている。私も積極的に紅玉を仕入れている。紅玉はアップルパイなど料理や加工に使われる。市場の人の話では最近の紅玉はかなりの割合でスマートフレッシュ処理されていると聞いている。東京のケーキ屋が最近のアップルパイは香りが無く美味しくないと言っている。皆さん想像してください香りのないアップルパイは美味しいでしょうか。私は香りと味の両方がりんごには必要だと思います。（青森県りんご商業協同組合連合会 青年会 高木会長）

<台湾瓦克国際股份公司 李 昭志>

- ・昨年、台湾で食品の安全性が大きな問題となった。問題視されたのは放射能物質汚染です。年末に青森産のりんごはまったく売れなくなってしまった。原因の一つは価格高となった単価、もう一つは原発事故による放射能汚染の風評被害だった。春節の頃になってようやくりんごの販売が回復してきた。放射能汚染の風評被害に対してどのような対応が必要だったか検討する必要がある。
- 県では2011年度から放射性物質モニタリング調査を実施している。これまでの調査で放射性物質は一度も検出されていない。国の補助を受けての調査継続は不要という声もあるが、輸出のために調査を続けている。今年も輸出が始まる前に調査を実施しホームページで公表している。（青森県りんご果樹課 舘田課長）
- ・台湾メディアは、輸入されている日本産の加工食品に原産地表示がないものがあり、この問題を放送する時に日本食品の代表と言えるりんごの映像を頻繁に使った。このため消費者が放射性物質汚染と青森りんごを結び付けてしまった。原発事故や放射能汚染の話は口にしたくないが、こういう危機的なことへの対応も想定する必要がある。私個人が消費者に説明しても限界があるので、県や農水省が

台湾の日本台湾交流協会などを使って緊急記者会見を開いて安全性をアピールするような対応が必要だったと思う。

→先週、台湾の新聞社2社を青森に招いて、青森県産りんごから放射性物質が検出されたことはないと説明した。また、台湾の新聞広告でも安全、安心を強く訴えている。台湾の新聞社による検査センターの取材も済ませているので、問題が起きた場合は、いつでも新聞で安全性を公表できる準備をしている。（青森県りんご対策協議会 高澤事務局長）

＜青森県りんご商業協同組合連合会 高木会長＞

・輸出量の3万トンは、県産りんご県外販売量の一割を占めており皆様に感謝しています。青森県はグローバルギャップ取得の取組が遅れている。台湾・香港の方はグローバルギャップの取得についてどのように考えていますか。

→グローバルギャップの取得は、台湾では必要としない。植物検疫の証明書があれば問題はない。ギャップ取得は経費や手間がかかるので、あえて取得する必要はないと思う。（台湾瓦克国際股份公司 李 昭志）

＜青森県りんご協会 藤田会長＞

・近年和食が世界で受け入れられている。同様に、青森県産りんごの日本的な良さを広く知ってもらいたい。見た目、歯ざわり、ジューシーさ、味が良く香りもあるこのような日本的な良さを知ってもらい、海外での販売を拡大してほしい。

＜青森県りんご輸出協会 白藤理事＞

・輸出の競争相手となるアメリカや韓国のりんご生産状況について教えてください。

→アメリカは昨年より一割増という話を聞いている。韓国も順調だと聞いている。（台湾瓦克国際股份公司 李 昭志）

＜味珍味（香港）有限公司 FRANKIE P. WU＞

・香港でのアメリカ産りんごは販売前に年間の出荷計画を立て、それに基づいて出荷される。韓国は国が関与して計画的に出荷している。日本産は各県でバラバラの出荷なので、日本産同士が競合し価値を下げている。

＜青森県りんご輸出協同組合 中村理事長＞

・昨年産のりんご販売は、生産者、業者、消費者の三者が全てウイン・ウインという状況ではなかった。安定的な取引を継続するために、台湾側はとにかく早くりんごを欲しがらる癖を直していただきたい。台湾・香港ともに取引相手は固定化してきているので、連絡を取り合って需要に見合った計画的な出荷を進めることで価格の高騰を防いでいきたい。台湾側から入荷量を平準化するのは不可能と聞いているが、力を合わせて出荷が一時期に集中しないよう改善していきましょう。

5 台湾・香港青森りんご友の会認定証交付について

台湾青森りんご友の会は、平成24年10月に創設されたが、今回新たに加わった4社に対して認定証を交付しました。

これまで認定している71社と合わせると全体で75社が会員となっている。

また、昨年創設した香港青森りんご友の会は、今回2社に認定証が交付され、計で6社となりました。両方の友の会を合わせた合計は81社となりました。

認定証は、懇親会の会場で青森県りんご輸出協会北山理事長から6社の代表に交付されました。



6 産地見学

情報交換会に先立って、台湾・香港からの招待者を産地見学に案内した。

訪問先

① 弘果弘前中央青果市場見学



② 青森県りんご研究所見学



③ マルジンサンアップル選果場見学



④ 森山聡彦園地（弘前市樹木）



⑤ 貞昌寺



出席者名簿台湾側

No.	所 属	氏 名
1	台湾瓦克国際(股)公司	李 昭志
2	元霖實業(有)公司	余 立元
3	日盈國際有限公司	黄 文博
4	和新生鮮有限公司	紀 奕成
5	台鮮有限公司	張 鈞淇
6	馥農企業股份有限公司	李 婉瑜
7	瑜寧股份有限公司	李 婉禎
8	味珍味(香港)有限公司	FRANKIE P.WU
9	大昌行集團有限公司	LOOI CHOY HAR
10	欣達果菜生産合作社	邱 文瑞
11	欣達果菜生産合作社	呂 俊霆
12	欣達果菜生産合作社	邱 景暘
13	欣達果菜生産合作社	蔡 明池
14	欣達果菜生産合作社	劉 小曼
15	欣達果菜生産合作社	楊 能期

日本側

No.	所 属	氏 名
1	青森県知事	三村 申吾
2	青森県国際経済課長	沖沢 進
3	青森県国際経済課総括主幹	佐藤 新吾
4	青森県国際経済課主幹	本田 齐与
5	青森県りんご果樹課長	舘田 朋彦
6	青森県りんご果樹課主幹	間山 三紀夫
7	青森県港湾空港課主事	小笠原 裕章
8	青森県産業技術センターりんご研究所長	今村 友彦
9	青森県りんご対策協議会常務理事	森山 博幸
10	青森県りんご対策協議会事務局長	高澤 至
11	青森県りんご商業協同組合連合会長	高木 登
12	公益財団法人青森県りんご協会会長	藤田 光男
13	ジェトロ青森貿易情報センター所長	奥 貴史

No.	所 属	氏 名
14	青森県りんご輸出協同組合理事長	中村 輝夫
15	青森県りんご商業協同組合連合会青年会長	高木 健太郎
16	宮川商店(株)	樋口 拓哉
17	(有)運盈商事代表取締役	鈴木 明達
18	(有)運盈商事	周 子喬
19	(株)ファーストインターナショナルGM	吉田 悦子
20	(株)ファーストインターナショナル課長	立崎 恵一
21	(株)富島商事代表取締役	島崎 健治
22	(株)富島商事係長	王 婷
23	東海海運(株)課長	清水 信昭
24	東海海運(株)係長	治尾 泰之
25	ワンハイラインズ(株)課長	鈴木 芳朗
26	ワンハイラインズ(株)主任	中村 勇太
27	(株)ペガサスグローバルエクスプレス課長代理	能澤 一裕
28	陽明日本(株)代表取締役	蘇 尚謙
29	陽明日本(株)	邱 建智
30	陽明日本(株)次長	詹 桂熒
31	陽明日本(株)課長代理	藤掛 純也
32	陽明海運股份有限公司	林 弘婷
33	CMA CGM JAPAN(株) (CNC 正利航業)	松田 尚也
34	日本フレートライナー(株)国際事業部次長	池田 明元
35	日本フレートライナー(株)国際事業部盛岡 ICD 事業所長	西川 修三
36	ティ・エス・ラインズ・ジャパン(株)	山下 泰宏
37	日本通運(株)青森支店課長	大高 雅寛
38	日本通運(株)青森支店係長	辻 征哉
39	大東港運(株)営業第一部長	若林 英雄
40	横浜市港湾局	富田 真史
41	横浜川崎国際港湾(株)係長	内藤 淳
42	神奈川臨海鉄道(株)係長	金子 隆
43	神奈川臨海通運(株)常務取締役	北村 篤孝
44	(株)大昌貿易行	野田 剛広
45	OOCL日本支社	平山 哲

No.	所 属	氏 名
46	りんご生産者	矢田 康祐
47	りんご生産者	出町 晋士
48	りんご生産者	鈴木 克昌
49	りんご生産者	戸沢 勇人
50	りんご生産者	阿部 秀平
51	りんご生産者	阿部 順紀
52	りんご生産者	中川 史也
53	りんご生産者	七戸 庸介
54	りんご生産者	葛西 伸
55	青森県りんご輸出協会理事長	北山 敏光
56	青森県りんご輸出協会専務理事	丹代 金一
57	青森県りんご輸出協会常務理事	竹谷 保
58	青森県りんご輸出協会理事	鍛 恒雄
59	青森県りんご輸出協会理事	白藤 孝仁
60	青森県りんご輸出協会理事	葛西 綾子
61	全農あおもりりんご部りんご課長	竹達 広治
62	ヤマタ太田りんご移出専務取締役	太田 雅晴
63	(株)三印白藤商店	白藤 功太郎